

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナルナーサリー
施設所在地	東京都江戸川区瑞江3-30-13

1. 活動のテーマ

<テーマ>

せかいをしろう 1 (せかいタッチ)

・電子黒板を用いて、ZOOMでリアルタイムで世界の子ども達との異文化交流をする。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

インターナショナルの園という事もあり、世界が身近にあった。その事から、自然と世界に興味を持ち、保育者に時差などを問いかける姿見られた。また、世界の料理を取り入れていることから、食材にも興味を示していた。

2. 活動スケジュール

4歳児・5歳児対象として行った。「せかいタッチ」を活用し、9月ニュージーランド・10月ケニア・11月シンガポール・2月インドと、4か国パーティーに参加した。また、世界の料理として、5月メキシコ・7月フィリピン・9月イタリア・11月アフリカ・1月日本・3月アメリカの、料理を給食時に提供した。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

せかいタッチの教材を取り入れ、電子黒板での動画・音声学習ができるよう用意した。また、図鑑も購入した。子どもたちの写真を記録として取り、振り返りに使用したり、子どもたちの気づきに繋がられるようにした。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・世界の料理、せかいタッチパーティーが行われる前に、電子黒板を使用してその国について学ぶ。
- ・世界の料理では、キッチンの職員から、導入としてその国の話をしてもらい事前に学んでから、給食をいただいた。
- ・せかいタッチを導入し、各国のパーティーに参加する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・せかいタッチでは、導入時にその国について学習をしていたところ、「日本からこんなに離れてるんだ」「飛行機に乗ったら、どのくらいかかるんだろう」と言葉にしていた。
 - ・その国の時差にも興味を示し、「日本の〇〇時間遅いんだ」「日本は明るいのに、今は夜なんだ」と、疑問に思う所もあった。
 - ・世界の料理では、その国の言葉で挨拶をしたり、その国の作法で食べてみたりと、楽しむことが出来、「なんでお箸使わない国があるの?」と、異文化を感じている姿が見られた。その後は、食材にも興味を示し図鑑等で調べるなどしていた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

世界の子どもたちと実際にZOOMで繋ぐことで、その国の雰囲気を知ることが出たり、実際に会っているような雰囲気を味わうことが出来たりと、子どもたちの良い刺激になっていたように思う。気になっていた時差についてはもちろん、気になっていた洋服などにも目を向け、きてみたいねなど言葉も出てきていた。そのため、ハワイの衣裳を購入し、5歳児は米袋でのアロハシャツ作りへと展開した。給食を通し、食べ物の大切さ、日本ならではのルールなども学ぶことが出来、よい経験となったように思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナルナーサリー
施設所在地	東京都江戸川区瑞江3-30-13

1. 活動のテーマ

<テーマ>

せかいをしろう 2 (図鑑)

- ・図鑑を用いて、子ども達の興味を持ったものを調べたり、色々な疑問を解決する。また、新たな発見を自分から見つけられるようにしていく。

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・インターナショナルの園という事もあり、世界が身近にあった。また、世界の料理が2か月に1回給食時に様々な国が提供されていた。そこから、子どもたちも世界の料理について興味を示し、調べる姿も見られたため設定した。

2. 活動スケジュール

4・5歳児対象として行った。図鑑を使用し、個々で気になったものを調べ友だちや保育者と一緒に、意見の交換をする。

世界の料理を提供する日には、電子黒板や図鑑を使用してその国について学んだ。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

世界の料理が提供される日などに、せかいタッチの教材を用いながら、電子黒板での動画・音声学習が出来るよう用意した。気になる事をすぐに調べることが出来るように、図鑑を手に取りやすい場所に提供した。

提供された際の、子どもの姿を写真などで記録し、子どもたちと振り返りを行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・世界の料理の提供前に、電子黒板や図鑑を通して、その国について学ぶ。
- ・キッチンの職員から、導入としてその料理について説明をしてもらってから、給食をいただく。
- ・そこで気が付いた事や、気になった事を図鑑で調べる。調べた事を、保育者や友だちと一緒に共有する。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・部屋の構成上、5歳児クラスから給食室が見える。そのため、作っている工程を見ながら、「今日は、〇〇の世界の料理の日だね」「これは、なんだろう？じゃがいも使ってるよ」などと、言葉にして完成を楽しみにしていた。そこから、その食材について調べたり、世界の料理の図鑑を用いて、その国の料理を調べ保育者や友だちに伝えていた。
 - ・食べ物などの図鑑を見ながら、更に探究心が芽生え、魚・昆虫などの図鑑も見ながら、日本と世界にの違いについて知ろうと調べる姿が見られた。また、図鑑を見ながら魚などの作品を玩具で作る姿も見られた。



<振り返りによって得た先生の気づき>

普段何気なく遊びの中で、使用していた図鑑だが、子ども達の中でしっかりと学びにつながっていることが再度理解できた。1つのテーマから、枝分かれするように様々な視点で世界と日本の違いについて、調べようとする姿勢が見られた。また、学んだことを、友だちや保育者に伝えることで、個々の喜びにもなり調べる楽しさを感じることが出来たように思う。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナルナーサリー
施設所在地	東京都江戸川区瑞江3-30-13

1. 活動のテーマ

<テーマ>

せかいをしろう3 せかいを表現しよう (レゴブロック・ラキュー・カプラ・お人形・おままごと)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
・インターナショナルの園という事もあり、世界が身近にあった。EnglishTeacherとの関りが常にある事から、海外の遊び等にも触れていた。海外の玩具にも興味を示していたことから、より遊びの幅を広げるためにも、このテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

遊びの幅を広げながら、新しい玩具で表現することを楽しむことが出来ることを期待し設定する。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
・世界にはどのような遊びがあるのかを、図鑑等で調べた。
・常に関わりのあるEnglishTeacher から、出身地の遊びを教えてもらう。
・今までになかった玩具を購入した。
・遊びの様子や、子どもたちの反応を写真や言葉にして振り返りを行った。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・ EnglishTeacherから、その国の遊びを学び実践する。
- ・ 普段作っている作品を、新しい玩具で作ろうと挑戦する。
- ・ 作りたい作品を、図鑑等から見つけ、見ながら作る。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・ 新しい玩具を目にすると、喜びの表情を見せていた。実際に玩具に触れてみると、においを嗅いでみたり、重さを感じてみたりと、観察をしていた。その後、「木のおいがするね」「ほかにも木の玩具たくさんあるかな?」「お部屋にも、木の玩具たくさんあるよね」「けんだま、こまも、木で出来てるよ」と、言葉にしていた。感じたこと思った事を子どもたち同士で、会話していた。
- ・ また、継続してあそぶことができる環境を取り入れたことから、納得ができるまで作品を作り上げることが出来た。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

継続した遊びができる環境を取り入れることで、遊びが発展し子どもたちの想像力がより豊かになると感じた。新しい玩具を手に取り、においをかいだり素材についても子ども達同士で話し合う姿も見られたので、普段気が付くことが出来ないような事にも気が付き、自然と様々な体験をすることが出来ていた。子どもの遊びを発展することが出来るような玩具の種類の提供の大切さを再度認識することが出来た。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	若葉インターナショナルナーサリー
施設所在地	東京都江戸川区瑞江3-30-13

1. 活動のテーマ

<テーマ>

せかいをしろう 4 (日本) 茶道・書道・たこ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

・インターナショナルの園という事もあり、世界が身近にあった。English Teacherとの関りや、世界の料理を取り入れていることから、国について興味が強かった。そのため、日本と世界を比べてみたら、色々な発見が見られるのではないかと思い設定した。

2. 活動スケジュール

- ・4・5歳児対象。
- ・せかいタッチや世界の料理の日などに、日本と比べることが出来るような言葉かけを行っていく。また、こどもかいぎを通して、各国について話し合いを行い、日本との違いに気が付く。
- ・気が付いたことを写真などでまとめ、子どもたちと一緒に話し合いを行う。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・書道、たこ、けんだま、こま、図鑑を購入した。
- ・日本の文化により親しむことが出来るように、こどもかいぎを開く。子どもたちの言葉や表情を記録する。記録したものなどで、子どもたちと再度振り返りを行い、日本についてより深めていく。
- ・たこ製作を行い、たこあげ大会を実施。日本文化に触れる機会を作る。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・せかいタッチのパーティー等が終わった際に、日本と異なる箇所について話し合いを設ける。
- ・日本をテーマに、こどもかいぎを行い、会議中に上がった玩具や図鑑などを見たり、遊んだりする。
- ・日本の玩具の特徴や、日本と海外の違いを知り、図鑑などで調べたりする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

・こどもかいぎを開き、「日本」をテーマに話をした。「日本って?」と大まかなテーマを投げかけた。子ども達からは「けんだま・こま・ゆかた・お寿司」など、日本らしいものが上がった。そこで、実際にけんだま・こまを見てみると、「木のおいがする」「お部屋の中にも木のおもちゃがたくさんあるよ」と、木のおもちゃ探しが始まった。また、お寿司の載っている「世界の料理」の図鑑を通して、「他の国の語の料理もおいしそう・食べてみたい」と、言葉にし、「どうやって作るんだろう」と工程にも興味が出た。そこから、せかいタッチのインドパーティーも近かったことから、クッキングに発展した。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日々生活している日本について子ども会議を開くことで、日本ならではのものに目を向けることが出来た。そこから、日本と海外の違いについても学ぶことが出来、子どもたちの気づき・考えを改めて知ることが出来た。そして、保育者の活動内容を広げたり、環境設定を見直すきっかけにもなった。また、常に活動を続けていくことが出来るような環境設定を設けていくことで、子どもたちの遊びの発展と経験につながったように思う。